

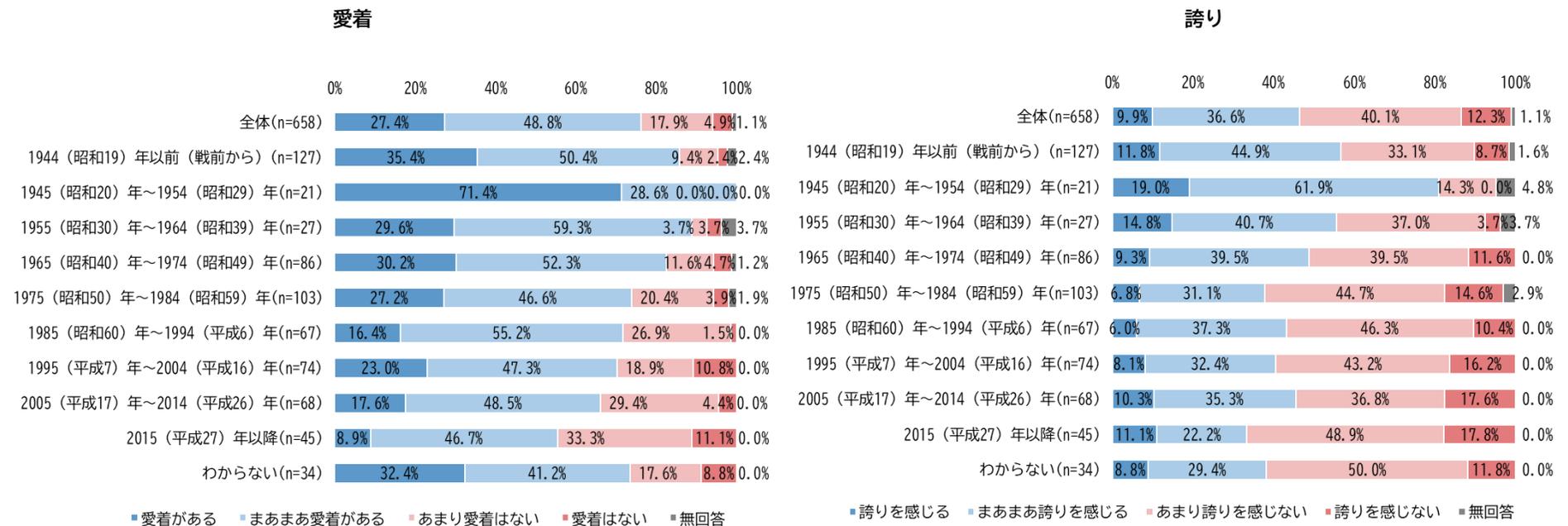
「市民の瀬戸市に対する誇りを育む」参考データ 【論点1(2)】

市民アンケート調査のうち、問17「愛着について」及び問18「誇りについて」と、その他の設問のクロス集計を行った。

問5 あなたや、あなたの家族がはじめて瀬戸市に居住した時期について回答してください。

愛着、誇りともに、はじめて瀬戸市に居住した時期が「1945（昭和20）年～1954（昭和29）年」で、「愛着がある」「誇りを感じる」傾向があり、以降愛着が減少する傾向がある。

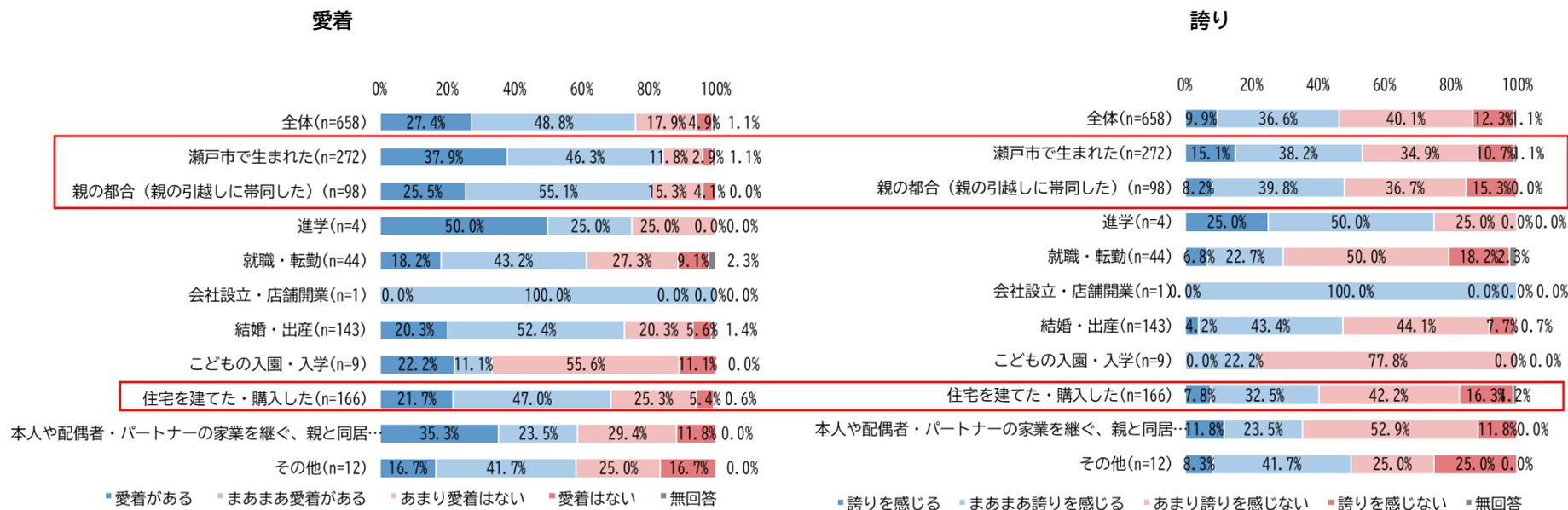
→居住年数が長いほど、愛着のポイントが高くなる傾向があるが、誇りのポイントは居住年数の長さにあまり影響を受けない。



問6 あなたが瀬戸市に居住をはじめた「時期」もしくは「きっかけ」について回答してください。

「愛着がある」「まあまあ愛着がある」の合計は、「瀬戸市で生まれた」「親の都合（親の引越しに帯同した）」「住宅を建てた・購入した」の順に高い。「誇りを感じる」「まあまあ誇りを感じる」の合計は、「瀬戸市で生まれた」「親の都合（親の引越しに帯同した）」「結婚・出産」の順に高い。※nが10以上の項目のみを参照

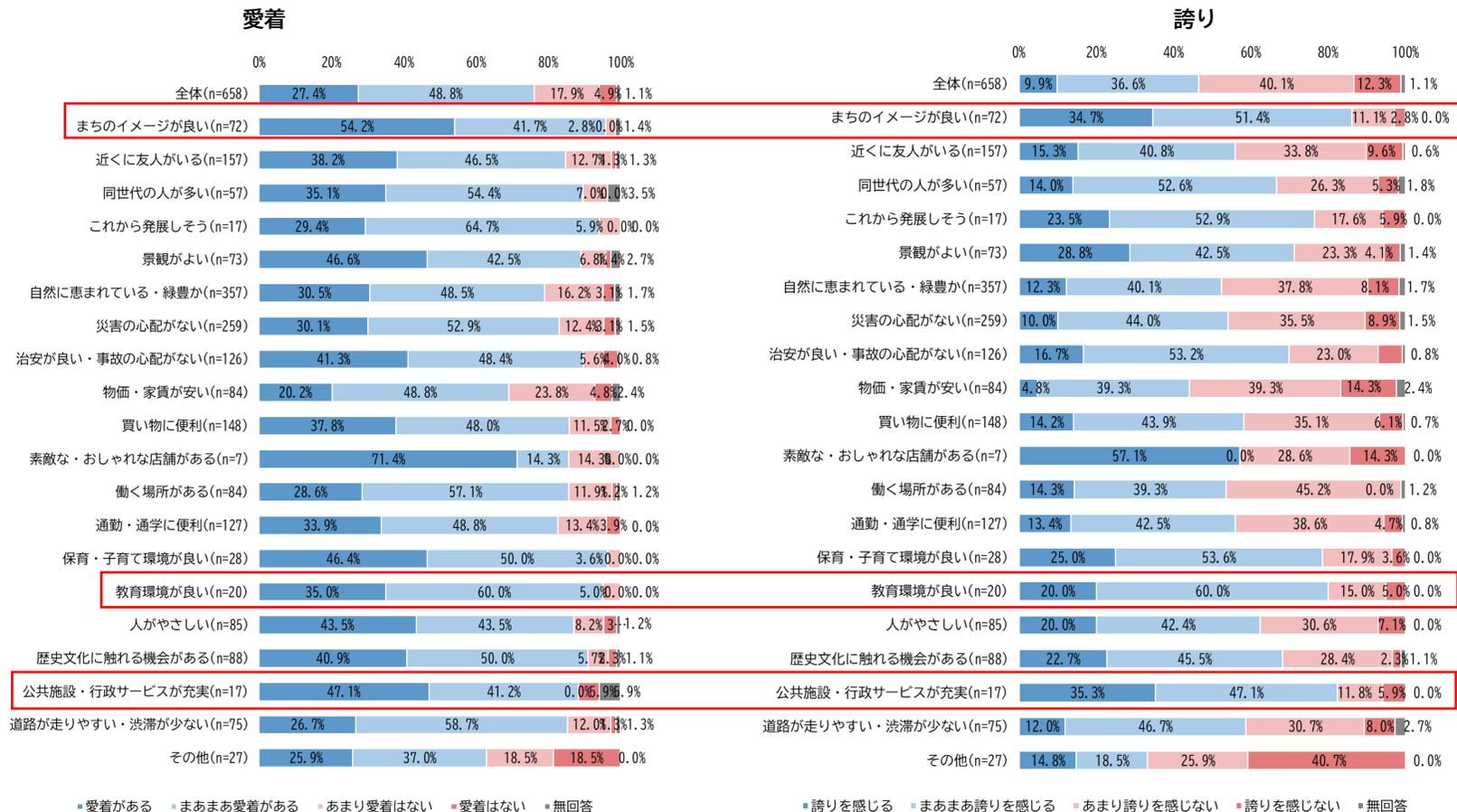
→瀬戸市で生まれた人や親の都合で居住した人は、愛着、誇りのポイントともに高くなる傾向があり、住宅を建てた・購入した人は、愛着に対して誇りのポイントが低い傾向がある。



問 8 あなたが瀬戸市で生活していて良いと思うところは何ですか。

「愛着がある」「まあまあ愛着がある」の合計と「誇りを感じる」「まあまあ誇りを感じる」の合計の差は、「働く場所がある」「災害の心配がない」「近くに友人がいる」「買い物に便利」の順に大きく、反対に、「公共施設・行政サービスが充実」「まちのイメージが良い」「教育環境が良い」の順に小さい。
※n が 10 以上の項目のみを参照

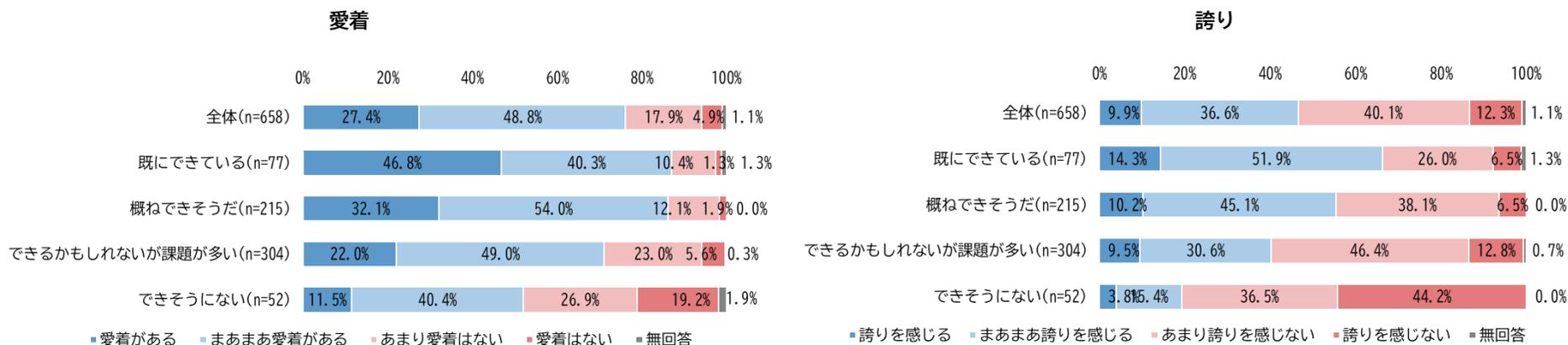
→「公共施設・行政サービスが充実」、「まちのイメージが良い」、「教育環境が良い」点に魅力を感じている人は、愛着と誇りのポイント差が小さく、誇りを高めるために重要な要素であると推察される。



問 15 希望する暮らし方について、あなたは瀬戸市で実現できますか。

希望する暮らし方を実現できるほど、「愛着がある」の割合が高いのに対し、「誇りを感じる」の割合は大きく変わらない。

→希望する暮らしの実現度が低いほど、誇りのポイントが低くなることから、希望する暮らしの実現度が誇りを感じる度合いに影響すると推察される。



問 20 あなたが瀬戸市にあてはまると思うイメージを選んでください。

「愛着がある」「まあまあ愛着がある」の合計と「誇りを感じる」「まあまあ誇りを感じる」の合計の差は、「カオス（ごちゃごちゃしている）」「さびれている」「停滞」「保守的」の順に大きく、反対に、「美しい」「多様性のある」「さわやか」「ゆったりした」の順に小さい。※nが10以上の項目のみを参照

→「美しい」「多様性のある」「さわやか」「ゆったりした」というイメージが、誇りを高めるために重要な要素であると推察される。

